



アーティスト・イン・スクール

イルワン・アーメット
ティタ・サリナ
×
前橋市立 桃井小学校

中島佑太
×
前橋市立 桃川小学校

住中浩史
×
前橋市立 わかば小学校
前橋市立 東中学校
前橋市立 第六中学校



アーティスト・イン・スクールとは

アーティストやクリエイターが市内の小・中・高校へ出張し、授業や部活動で学校の先生たちや児童・生徒と関わりながらワークショップや授業を行うプログラムです。将来の地域や文化を担う児童・生徒たちとアーティストが共同で学び、自分の可能性を考え、発信する表現力や他者とのコミュニケーション力を身につけます。実施にあたっては、アーティスト、実施時期、内容等について学校側の要望に合わせてプログラムを組み立てます。



海でつながる遠い国、白い布でつなげる想い

インドネシア・ジャカルタを拠点として活動するイルワンとティタは社会問題をテーマに作品を制作しています。AISの直前 2018年9月にインドネシア・スラウェシ島沖で発生した M7.4の大地震を受けて、桃井小学校の2年生が絵や映像を通して、現地の子どもたちが元気になるメッセージを表現する活動を行いました。災害の映像や写真を通して日本とインドネシアの地理的な共通点、人を思いやる気持ちを学びました。小学生が描いた絵や撮影した映像はアーティストによってインドネシアに届けられ、インドネシアの子どもたちから返事が届く予定です。

プログラム概要

日時：2018年10月15日（月）9:30-11:30
 「図画工作」の授業
 場所：前橋市立桃井小学校 体育館
 対象：前橋市立桃井小学校 2年生 3クラス61名
 通訳：油井理恵子

当日のスケジュール

9:30 ～ 9:45	「知る」 ・アーツ前橋とイルワン&ティタの紹介 ・インドネシアと日本の地理的共通点について ・スラウェシ島沖地震・津波の被害について
9:50 ～ 10:20	「描く」 被災した子どもたちへ絵や文章でメッセージを描く
10:20 ～ 10:30	休憩
10:30 ～ 11:00	「話す」 被災した子どもたちへ言葉のメッセージ動画撮影
11:00 ～ 11:20	「体で表現」 白い布に指でメッセージを描く活動
11:20 ～ 11:30	子どもたちの感想発表と質問タイム
11:30 ～ 11:40	子どもたちからアーティストへ歌のプレゼント



●「インドネシアの子どもたちを元気づける活動を一緒にしてくれますか？」というアーティストの問いかけに答える子どもたち。



●「新しい家が早くできるように」と願いを込めて絵やメッセージを描きました。



●描いた絵をアーティストへ託します。



●次は大きな布を使って表現。アーティストがやり方を説明します。



●布の下に児童が入り、インドネシアの子どもたちへ指でメッセージを描きます。



当日までのスケジュール

7/31	担当の先生とコーディネーターの打ち合わせ (方向性とスケジュールの決定)
9/20	アーティストとプログラム内容についての打ち合わせ
9月下旬	コーディネーターから学校へ連絡、内容の最終決定
10/9	実施を前にアーティストが体育館の下見を行う

活動のポイント

- 異文化交流：日本とインドネシアの地理的共通点と自然災害について知りました。
- 心：被災した子どもたちの気持ちを想像しました。
- 表現：描く、話す、身体で表すなど様々な表現を行いました。

先生たちの声

子どもたちがのびのびと絵を描いたり、インドネシアのことを深く考えたりしていた姿は私たちにとって新しい発見でした。普段、学校現場ではこういった経験をなかなかさせられないので参加できてとても良かったです。

(2年 吉野先生、大山先生、町田先生)

子どもたちの声

- ・絵が上手だねって言われてすごくうれしかった。
- ・布の中から描くのが楽しかった。
- ・インドネシアに行ったことがないから、いつか行ってみたい。

アーティストから

日本もインドネシアも自然災害が多い国であると考え、白い布を大陸プレートに見立てて子どもたちが指で揺れ動かすという「地震」をテーマにしたプログラムを組みました。当初は言葉の問題を気にしていたのですが、絵やジェスチャーを通じて楽しく子どもたちと関わることができました。今回使った布はインドネシアのロンボク島の子どもたちへ届けて、今後彼らからのメッセージを桃井小学校へ渡したいと思っています。

イルワン・アーメット(♂)&ティタ・サリナ(♀)

インドネシアを拠点に活動している2人組アーティスト。公共空間における都市問題や社会的問題をテーマに世界各国でアートプロジェクトを行っている。2017年～2018年にかけてアーツ前橋の滞在制作事業で招聘。前橋のまちなかで行われた展覧会「つまずく石の縁ー地域に生まれるアートの現場ー」(2018年)や、「闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s-2010s」展(2019年)にも参加している。



学校の日常にアーティストが入り込む

昨年に引き続き2年目の継続事業で、アーティスト独自の視点や考え方を活かして教員の補助や児童の支援を行いました。本年度は給食の時間、休み時間、特別活動など、児童の日常生活にもアーティストが参加し、対話やコミュニケーションを行ったことが特徴です。学校外のワークショップを含め、アーティストが児童と幅広く・長期的に関わり、子どもや先生方、保護者の方々と信頼関係を築いています。アーティストの介在により児童・保護者・教員の関係性が豊かに変容し、学校教育や図工の新たな展開や価値を生み出すことが期待されます。

*この活動は南橋団地の住民を対象としたアーツ前橋の「表現の森」の一環として行われた継続事業です。

プログラム概要

期間：2学期～3学期

場所：前橋市立桃川小学校 教室、図工室、パソコン室他

対象：前橋市立桃川小学校 4、5年生4クラス

スケジュール

6/14 7/11	校長先生、教頭先生、教務主任、図工主任の先生とアーティスト、コーディネーターの顔合わせ 活動日程、時間割、対象学年についての打ち合わせ
10/10 ～10/31	4～5年生の図画工作授業にチーム・ティーチングで参加（T2） 水彩、読書感想画 5年生：絵を描く会「銀河鉄道の夜」 4年生：絵を描く会「おおきな木が欲しい」
12/20	アーティストが4年生のおたのしみ会に参加
12/14 ～12/17	木工 5年生：糸のこすいすい 4年生：ぎこぎこクリエイター
1/10 ～2月下旬	版画 5年生：一版多色版画（植物） 4年生：版画（動物）



●先生ではない大人が学校にいるのは楽しいという児童。



●給食の時間は子どもたちとのコミュニケーションの時間。

活動のポイント

●幅広く長期的な子どもとの関わり

アーティストは学校を含めた周辺地域で活動しています。図画工作の授業だけでなく、休み時間に一緒に遊んだり、給食を食べたり、子どもの生活を見つめる視点は非常に多面的です。長期的に子どもとの関係性を育むことを重視しており、子どもと信頼関係をもった上で、アーティスト独自の視点と考え方で授業の支援をします。

●対話とコミュニケーション

子どもが何をしたいのかを大事にし、対話を通して子どものやりたいことを引き出します。その過程で子どものコミュニケーション能力が育まれます。

先生たちの声

中島さんが授業へ入ることで、この子たちはこんな風に人と関わるんだという発見がありましたし、彼らの選ぶ色や思いつくアイデアが変わっていていると感じます。授業で同じ道具・教材を使っているとどうしても型にはまってしまうのですが、もっと自由でいいんだ、と中島さんから教えてもらっています。
(5年 高橋綾子先生)

図工専科ではない立場で図工を教えなければいけないときに、上手くいかないなぁと思っていたことが多かったのですが、自分では思いもつかないアドバイスを中島さんからいただけるので助かります。教員とは全然違う立場の人が学校に入るとは子どもたちの価値観を拡げる意味でもとても重要だと思っています。
(4年 加藤織乃先生)

子どもたちの声

版画の授業のとき、いろいろな彫り方を教えてくれたので試してみると、イメージ通りのものができてうれしかった。やさしくていい人。また来てほしい。
(4年生)

中島さんが学校に来てくれてうれしい。南橋団地のワークショップは何回も参加しているけど、学校にいる中島さんはワークショップの時の中島さんとは違って見える。中島さんは子どものことが好きだと思う。
(5年生)



中島 佑太

1985年群馬県前橋市生まれ。幼少期を南橋団地で過ごし、ワークショップを手法に活動するアーティスト。2016年から南橋団地でアーツ前橋と群馬大学の学生たちと一緒に、「旅」をテーマにしたワークショップを開始。2017年からは、南橋団地を校区に含む桃川小学校の図工の授業に長期的に関わっている。

アーティストから

子どもにとって僕は親でも先生でもない存在で、そして授業で特別なことをしているわけでもない。

「この人よくわかんないな」と思う子どもいるかもしれないが、「でも、こういう人もいいよね」と、多様な人たちとの関係性の豊かさを感じてほしいと思っている。



●休み時間は子どもに誘われて校庭で一緒に遊びます。これも信頼関係をつくるきっかけに。



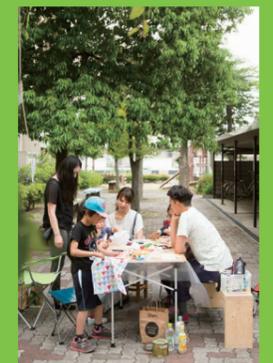
●アイデアが思い浮かばない時や、迷った時は相談します。

●表現の森について●

2016年度から「表現の森」のプロジェクトとして、南橋団地の住民を対象としたプログラムを中島佑太氏と開始しました。

2017年度からは南橋団地を校区とする桃川小学校へ中島氏を派遣するプログラムと連動させることで、学校と地域を行き来するような活動に発展しています。これまでの活動は、以下の特設サイトからご覧ください。中島氏によるアーティスト・イン・スクールレポートも掲載しています。

<https://www.artsmaebashi.jp/FoE/projects/project03/>





学びが活性化する自由な空間

小学校と中学校それぞれの余裕教室に、先生と相談しながら展示や表現を行うことができる空間を提案し制作しました。学校に突然現れた真っ白で非日常的な空間は、違和感と可能性を刺激する装置。先生のもつアイデアや子どもたちの表現をその空間が受け止めて拡張することで、子どもたちの自主的で多様な学習の場として、そしてそれぞれの学校の文化を発信する場として自由な空間は発展していきます。

活動のポイント

- 先生との協働：どんな場であれば学習につながるか先生と意見交換し、学校ごとに違う空間が完成しました。
- ゆるやかな発展：空間ができた後もアーティストが通い、空間の運営補助など臨機応変に進めています。

東中学校「ずっと仮名の美術館」

これまで実現できなかった生徒作品をまとめて展示できる空間を、教室の半分を使って制作しました。全校生徒による公募と投票で、名称は「ずっと仮名の美術館」に決定。作品展示の場のほか、生徒の主體的で多様な学びの場として活用されていく予定です。

場所：前橋市立東中学校 相談室

対象：前橋市立東中学校 教員、美術部員15名をはじめとする全校生徒

スケジュール

10/12	アーティストが全校朝礼で全校生徒へ挨拶
10/13 ~ 10/19	ミニ美術館（仮）の空間制作
10/29 ~ 11/20	ミニ美術館（仮）全校生徒へ公開、名称公募、全校生徒投票 名称が「ずっと仮名の美術館」に決定
12/17 ~ 12/19	第1回企画展「光のページェント・心をともしあかり」開催 2年生の授業作品の展示
2/26 ~年度末	美術部の生徒とインスタレーションを共同制作、展示



●初日、教室への資材搬入に柔道部が大活躍。



●第1回企画展には多くの生徒が鑑賞に訪れました。

先生の声

「ずっと仮名の美術館」という名称は、最終選考に残った5つの候補の中で、生徒の半数から支持されて決定しました。「ずっと仮名の」とつくことで多様な可能性を担保できるものになりました。制作にも生徒が関われば良かったのですが、今後は生徒が主体となって気軽に表現の場として利用できればと思います。

（東中学校 3年 小菅智志先生）

わかば小学校「わかば美術館」

図工室の教室壁面を白く塗装し、展示台や可動壁として利用できるオリジナルユニットを制作。教材、近隣中学校の生徒作品、アーツ前橋企画展と連動した児童作品の展示など、日々の学習と地域がつながる「わかば美術館」が誕生しました。

場所：前橋市立わかば小学校 第2図工室

対象：前橋市立わかば小学校 教員、全校児童

スケジュール

11/7 ~ 12/5	空間の制作 最終日に先生方へ公開して、活用についての意見交換
12/10 ~ 1/11	近隣学校巡回展「春日中学校美術作品展」開催 全校児童へ公開 展示作品に関連した名画や仏像が印刷されたアートカードやポスターなどの教材も合わせて設置
1/7	アーティストが全校朝礼で全校児童へ挨拶
1/15 ~ 2/15	「版画の世界展」開催 版画制作の授業授業へ向けて、使用する教材等を展示
2月下旬	「校内版画作品展」開催 授業で制作した児童の版画作品展 アーツ前橋で開催中のアジアの木版運動画展も紹介

先生の声

北校舎3階に2部屋の図工室。そのうちの1つがアーティストの手により「わかば美術館」として再構築された。昼休みに集い、また教師に引率され鑑賞に訪れる。運用を開始すると、新しい刺激が新しい子どもたちや教師の動きに結びついてきた。learningがactivateに、そして面白くなってきた。

（わかば小学校 4年 相良浩先生）

第六中学校「美術部×カオスギャラリー」

昨年度、美術部の生徒と一緒に制作し美術室近くの廊下に設置された「カオスギャラリー」。ここで、3~4人ずつのグループがそれぞれ自由な発想で展示を開催しました。アーティストは定期的に部活へ通って制作のサポートを行い、交流を深めました。

対象：前橋市立第六中学校 美術部 8名

期間：2学期~3学期

学校やアーティストの予定に合わせ、概ね月曜日の部活動に通いました。

アーティストから

さまざまな人が日常の中で新しい活動をしたくなる『場』と『出来事』を創出し、その『場』が時間をかけ活用されていく中で、新しい文化が生まれることを目指して活動をしています。学校の中に先生や児童・生徒が表現や鑑賞などの活動を自由にできる『場』があることで、ひとあじ違う共同的・主体的な学びを実践できると思います。



●大きな空間にチャレンジ！迷ったりしながらも役割分担して進めます。

住中浩史

地域『で』アートを行うのではなく、その地域『の』アートとはなにかを絶えず模索しながら、実際に制作・行為・会話の中で実践するアーティスト。近年は、新しいドラマが生まれる「場づくり」と、今起きているドラマが加速する「アイテム」づくりを行う。2016~2019年DASHIJINプロジェクト（八戸ポータルミュージアムはっち）など各地のアートプロジェクトに参加。



●中学生の作品を鑑賞しながら、見つけたことや感じたことを自然と話していました。



●ユニットは椅子型。図工で版画制作を行う時期には、参考教材や道具などを展示して、授業で活用しました。



●学級の展示で利用した際は、児童が自分たちで展示スペースの構成を考えました。

① 派遣アーティスト決定

展覧会に参加するアーティストなどから、アーツ前橋が派遣アーティストを決定します。



② 実施校決定

実施時期や内容を踏まえて、実施する学校を前橋市教育委員会と相談のうえ、決定します。
*実施校決定後に、学校の希望を踏まえて派遣アーティストを決定する場合があります。



③ 打ち合わせ、下見（必要に応じて複数回）

コーディネーター、アーティスト、アーツ前橋スタッフが学校を訪問し、児童・生徒の皆さんのふだんの様子や先生のご希望などをお聞きし、プログラムの詳細を打ち合わせします。また、会場となる場所の下見を行います。児童・生徒さんの皆さんの肖像権についても、予め確認させていただきます。



④ アーティスト・イン・スクールの実施

スタッフやコーディネーター、教育を学ぶ大学生などがサポートで入ります。今後の事業に反映するため、事業終了後に児童・生徒の皆さんや先生方へアンケートの実施をお願いする場合があります。



⑤ 報告書、記録映像の確認

年度末までに報告書や記録映像を作成します。
学校へ内容を確認させていただいた上で、アーツ前橋の公式サイトで公開します。

*原則として、前橋市内に所在している学校で実施します。
*学校側の費用負担はありませんが、学校にある機材や道具をお借りすることがあります。

これまで実施してきたプログラムについての詳細はアーツ前橋公式サイトに掲載しています。記録映像も載せていますのでぜひご覧ください。



主催：アートによる対話を考える実行委員会・アーツ前橋
助成：平成30年度 文化庁地域の美術館・歴史博物館を
中核とした文化クラスター形成事業
事業コーディネーター：NPO 法人まえばしプロジェクト
コーディネーター：小田久美子、梶原千恵
撮影：木暮伸也（P4-5、P6上）、土屋ミワ（表紙、P2-3）